

計画の名称	安心して住みやすい魅力ある市街地の整備（防災・安全）													
計画の期間	平成２８年度 ～ 平成３２年度（５年間）										重点配分対象の該当	○		
交付対象	取手市													
計画の目標	本市では「第六次取手市基本構想」（平成２８年３月策定）において、「ぬくもりとやすらぎに満ち、共に活力を育むまち」とりで」を実現するためのまちづくり方針の一つとして「快適で、安心できるまちづくり」を掲げています。 その重点施策として取手駅北土地区画整理事業では、取手駅西口地区の宅地造成や、交通結節点となる西口交通広場及び主要な道路交通網の整備を行い、都市基盤の整備を進めることで、安全安心で、活力と魅力ある中心市街地の形成を図ります。													
全体事業費（百万円）	合計（Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ）		17,654	A	17,654	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 $C / (A + B + C + D)$	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H28当初	H30末	H32末
1	取手駅北地区内において一体的なバリアフリー化を図ることにより、市民のバリアフリー化の認識度の向上を図ります。 市民のバリアフリー化の認識度の向上。 市民意識調査（質問内容：取手駅北地区について、段差が解消されバリアフリー化がされていると感じるか？）「そう思う」と回答して人数／全回答者数			
		19%	20%	22%
2	取手駅北地区内の交通結節機能の改善を図り、駅前交通広場の安全性の向上を図ります。 安全性の向上（事故件数の減少）。 { 1 - （目標値時点の過去３年の事故件数／現在の事故件数（H25～H27）） } × 100 = 事故の減少率			
		0%	10%	15%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	街路	一般	取手市	直接	取手市	区道	改築	取手駅北地区（（都）中 央町新町線外）	区画整理 A = 6.5ha	取手市	■	■	■	■	■	17,654	1.76	-
											小計						17,654		
											合計						17,654		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

取手市区画整理課において事後評価を実施

事後評価の実施時期

令和7年度

公表の方法

取手市ホームページにおいて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

・取手駅北土地地区画整理事業による都市基盤整備が進捗した効果により、施行地区内のバリアフリー化の認識度について向上が図れたことがアンケート調査により確認できた。
・事業効果として車両交通量が整備前より大幅に増加したため、整備前の事故減少率との純粋な比較は難しくなったが、施行地区内の交通事故件数自体は減少しており、本事業における一定の効果が見られた。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

○特記事項（今後の方針等）

引き続き次期整備計画においても本事業による都市基盤の整備を進めていき、安全安心で活力と魅力ある中心市街地の形成を図っていく。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	指標 市民のバリアフリー化の認識度の向上		
	最 終 目 標 値	22%	都市基盤整備が進捗した効果により、段差解消によるバリアフリー化がされたと感じる方の割合が27%と向上し、目標値を上回る結果となった。
	最 終 実 績 値	27%	
2	指標 取手駅北地区内の交通事故件数の減少		
	最 終 目 標 値	15%	事故減少率が2%となった要因として、都市基盤整備の進捗に伴う車両交通量の大幅な増加が考えられる。
	最 終 実 績 値	2%	